

CSR 環境報告書 2012-13



Upr ユーピーアール株式会社

Up^rはパレットを通じて地球と社会に貢献します。

TOP MESSAGE

弊社は「パレットを通じ人々の生活を便利にすること」を事業原点として励んでまいりました。創業は木製パレットの製造業でしたが、現在では、パレットを中心とした物流機器のレンタル業がコア事業であり、全国に拠点を配置し、一貫パレチゼーションに対応できる体制を整えています。このようにパレットの共同利用を通じ資源のリデュース、リユース、そして廃棄パレットを再利用したリサイクルパレットの製造など3R事業にも積極的に取り組んでおります。また最近ではITを利用した国内外の位置情報事業や遠隔監視制御システム、カーシェアリング事業など新たな領域にもビジネスを広げています。常にお客様の負担が少なく、効率が上がるようになります。パレットの資源である木と地球がいつまでも美しくあるように。これからも「地球と人を尊重する会社」を経営理念としてあらゆる領域にチャレンジするユニバーサル企業を目指し精進を重ねてまいりたいと存じます。



代表取締役社長 酒田 義矢

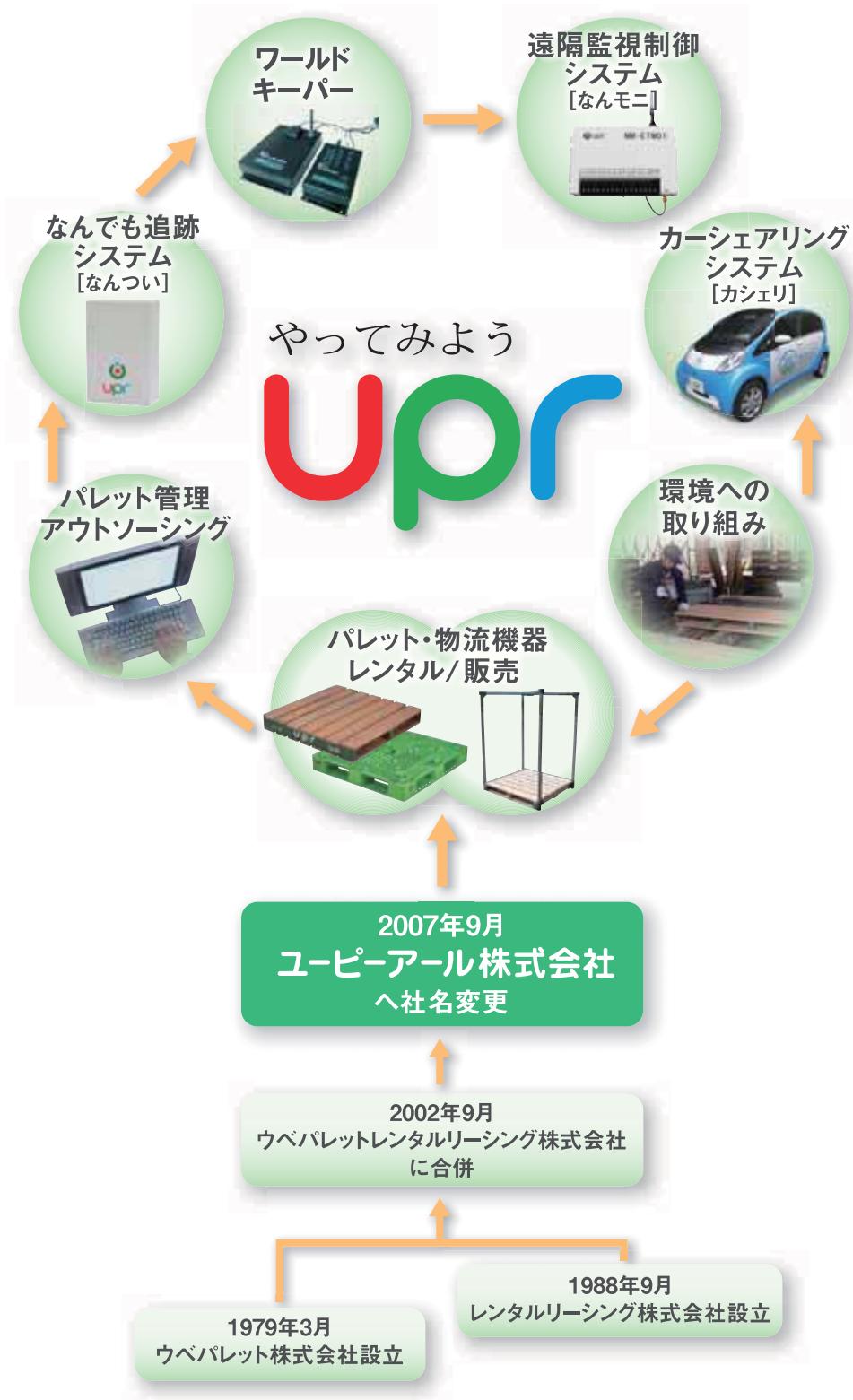
Contents

TOP MESSAGE	1
業務概要	2
Up ^r の商品・サービスのご紹介	3
パレットをレンタルして環境に貢献する	3
所有から「シェア(共有)」の時代へ カーシェアリングで新しいライフスタイル	6
なんでも追跡システム[なんつい]を使ってモノの流れの「見える化」を図る	9
Up ^r の活動	
植林活動	13
Up ^r の地域貢献活動・サービスネットワーク	14

業務概要

Business Summary

Up^rの夢は「地球をまるごと循環」すること。
ビジョン、努力、アイディア、そのすべてが夢実現の武器です。





パレットをレンタルして エコに貢献する。

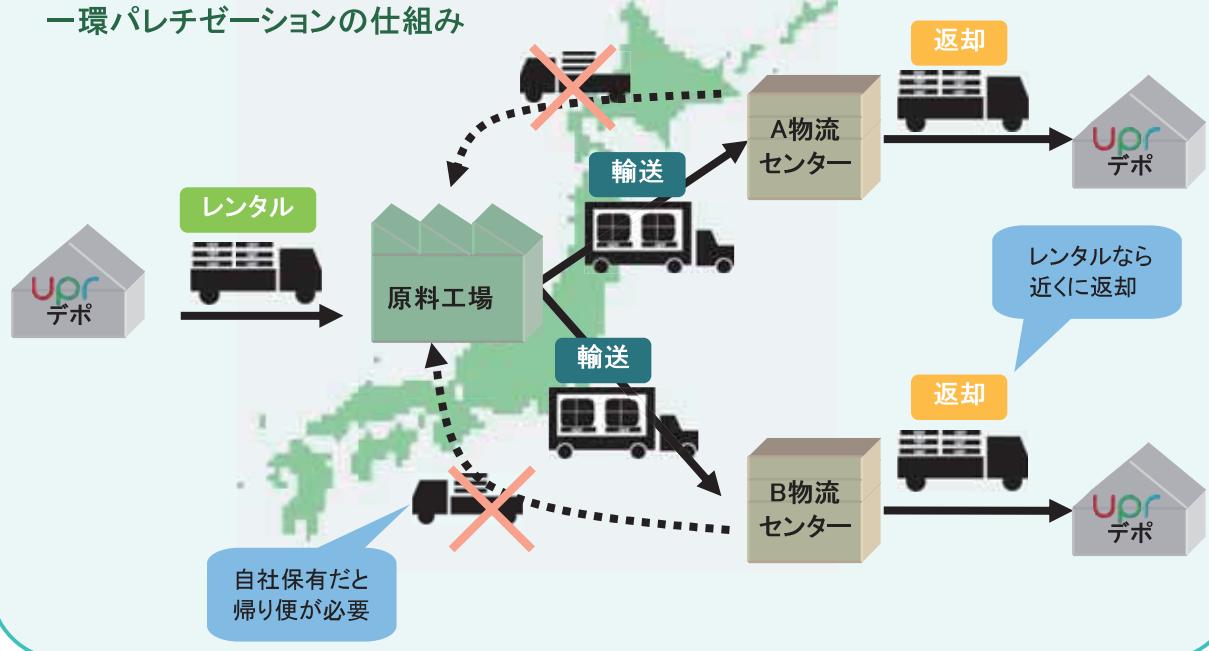


1枚のパレットを共同利用する

世の中にはモノがあふれています。1年間のうち、ほんの少しの期間しか使わないので購入して、普段はタンスの中に眠っている、なんてモノが誰の家庭にもあると思います。そんな世の中には、「使いたいときに使いたい分だけ」というレンタルという仕組みを上手に利用すると、モノを有効活用することができます。

繁忙期でパレットがたくさん必要な時期もありますが、逆にそんなに必要でない時期もあります。それぞれの企業が、パレットを多く使う時期にあわせた数量のパレットを「保有」するのではなく、必要な時期に必要な数量のパレット「利用」することにすれば、1枚のパレットを複数の企業が利用して有効活用できるのです。「所有」するよりも「利用」することが、資源の有効活用につながります。

一環パレチゼーションの仕組み



帰り便の輸送エネルギーを削減

発送地から着地まで積み替えなしで1枚のパレットで行うことを、一環パレチゼーションといいます。レンタルパレットで一環パレチゼーションをすると、発送地近くのパレット保管場所(デポ)で借りて、着地の近くのデポに返却すればいいので、パレットを回送するためのトラックを手配する必要がありません。つまり、**輸送コスト・エネルギーを削減**することができます。返却されたパレットは、デポで補修・整備され、また違うお客様に利用されます。多くのお客様に利用されながら流通するレンタルパレットは、環境に優しいシステムなのです。

Up^rのデポは全国各地に100箇所。一貫輸送に広く用いられているT11型、T14型パレットをはじめ、約270万枚という豊富な在庫量を誇っています。

パレットをレンタルすることによって、輸送に関わる「むだ」を少しずつ軽減し、輸送コストもCO₂排出量も抑えることが出来ます。

補修・整備をするから、寿命まで使える

たかがパレットといえど、洗浄や修理などのメンテナンスには時間や労力をとられるもの。**Up^r**なら、各デポで検品・補修・洗浄を行い、整備が行われたパレットをご用意しています。専用のデポでメンテナンスを集中して行うので、パレットの製品寿命まで大事に利用することができます。1枚1枚メンテナンスしながら使うので、無駄に廃棄することはありません。

また、寿命まで利用されたパレットは、焼却されるのではなく、マテリアルリサイクルされ、他の製品に生まれ変わります。パレットを専門に扱う当社だからこそできる、環境への配慮です。(詳しくは次のページをご覧ください)

- ◆ 補修・メンテナンスが充実しているから、1枚のパレットを長く使用できます。
- ◆ 一貫パレチゼーションによりお客様での積替作業の軽減、**輸送エネルギーの削減**に繋がります。
- ◆ パレットを共同で利用することで、**パレットの素材資源、製造時エネルギー削減**に繋がります。





<uprレンタルパレットの一生> ～製造からリサイクルまで～



PEFCとは、

環境に配慮した持続可能な経営を行っている森林や木材を証明するしくみです。証明された森林・木材には認証マークが付与されます。くわしくは、<http://www.pefcasia.org>をご覧ください。

造
る

木製パレットは、東南アジア産の広葉樹を使用しています。木材の無計画な伐採や浪費は、地球環境の悪化に大きく影響を与えます。木の使用＝環境破壊といったイメージで言われることもありますが、木はもう一度植えて育てる事のできる持続可能な資源です。uprでは、PEFC認証材のパレット使用を開始しました。そのほかにも、計画的に植林された森林からの木材を使用するなど、木材の持続可能な利用に勤めています。



uprのパレットは、 循環型パレットです。



リサイクル

役目を終えたパレットは、どうなるのでしょうか？

廃棄？焼却？いえ、リサイクルします！！
木製パレットは、宇部の弊社事務所に隣接している子会社ウベパレットサービス(株)や、協力会社にて破碎をおこない、パーティクルボードの原料として再利用しています。パーティクルボードは、床材やカラーBOXなど、いろいろな場面で活躍しています。
プラスチックパレットは、メーカーと協力して、再び当社のレンタルパレットに戻す取り組みを始めました。

リサイクル品を利用することによって、パレット1枚あたり3.5kgのCO₂削減が可能です。

な
お
す

3Rの一番初めにくるReduce。修理しながら長く使うことは、地球環境を考える上で、もっとも重要なことです。

uprでは、木製パレットはもちろん、プラスチックパレットの補修も行っています。木製パレットのデッキボードが1枚だけ割れてしまった、プラスチックパレットに穴があいてしまったという程度なら、修理すればまだまだ使えます。
そのほか、メンテナンスデポにて、1枚ごとに丁寧にチェックし、洗浄、補修を行い、お客様に最善の状態でお使いいただけるよう努めています。

所有から「共有（シェア）」の時代へ カーシェアリングで 新しいライフスタイル



電気自動車によるカーシェアリング

CO₂ 排出量ゼロの電気自動車は、エコ志向のカーシェアリングに適しています。また、まだまだ航続時間に限りがあることも、短時間・近距離走行の多いカーシェアに適しているといえます。当社では他社に先駆け 2010 年 5 月より、港区のカーシェアリングステーションに、電気自動車 i-MiEV (三菱自動車) を配置しました。また 2011 年 12 月には、けいはんな地区で電気自動車によるカーシェアリングの実証実験に参加しました。

CO₂ を排出量しない電気自動車はエコカーとしてますます認知されていますが、2011 年 3 月 11 日の震災を機に家庭向け太陽光発電が脚光を浴び、併せて充電池として活用も注目されています。非常時には電気自動車から家庭へ電力を提供できる仕組みです。コミュニティでシェアする電気自動車が、もしもの時には発電機として活躍するわけです。

けいはんなエコシティ・プロジェクトへの参加

京都・大阪・奈良にまたがる「けいはんな学研都市」は、経済産業省により「次世代エネルギー・社会システム実証地域」に選定され、エネルギーの地産地消のあり方の検証を通じて CO₂ 排出量が日本一少ない都市“けいはんなエコシティ”の実現に向けた取組を推進しています。2011 年には京都府の予算で(財)関西文化学術研究都市推進機構が中心となり、電気自動車の充電ネットワーク

構築のための実証実験が始まりました。2011 年度当社は三菱商事等と共同で提案し、カーシェアリング運営部分を任せられ、3 ヶ月の EV (電気自動車) カーシェアリング実験を行いました。

実験後の利用者へのアンケートから、実験参加の動機は電気自動車によるものが大きく、また環境問題への意識の向上が認められる一方、カーシェアリングへの認識が低く啓蒙の余地があることがわかりました。カーシェアリングは乗用車を所有・維持するコストを抑えられるだけでなく、環境負荷を抑えることができる点をもっとアピールできれば、新たなカーシェアリングの需要層が生まれると考えます。

パーソナルモビリティのシェアリング

自動車メーカー各社が 1~2 人乗りの小型電気自動車を発表し、国は軽自動車と第 1 種原動機付自転車の中間に位置する「超小型車」専用認定制度を年度内に新設することを発表しました。セグウェイ等の既存の移動ツールも含めると、個々の移動手段は今後ますます多様化すると思われます。

当社は従来の自動車とは違う、こうしたパーソナルモビリティでのカーシェアリングも検証しています。ドアがないものも多く、複数人でシェアする場合は鍵をどのように保管するかがポイントになります。事前に予約した人だけが鍵を取り出せる仕組みを現在開発中です。





地球温暖化防止(CO₂削減)対策への取り組み

カーシェアリングは、もともと地球環境に優しいエコな取組みです。特に CO₂ 削減に関しては、カーシェアリングを利用することにより、以下 3 つの側面から効果が期待されています。

まず 1 つ目は、車両のダウンサイ징による効果です。例えば 2000cc の車両を所有してしまうと、ひとりで乗車する場合も大勢で乗車する場合も、その車両に乗ることになります。カーシェアリングなら、利用の機会に応じて車両を選択できます。少人数による近場への移動には軽自動車やコンパクトカーを利用し、大勢で遠出する場合は大きめの車両を利用することが可能になります。

2 つ目は、利用頻度や交通手段の転換による効果です。カーシェアリングは使うごとに利用料金が発生することから、その料金抵抗により運転時間を必要最小限にとどめることができます。公共交通の利用頻度が高まり、短い距離の移動に自転車や徒歩を優先するなど、他の交通手段への転換による効果です。

海外の都市のカーシェアリング導入による効果の事例や、パーソントリップ調査等の統計から算出できます。

最後の 3 つ目は、カーシェアリングに転換することにより、車両そのものを所有しなくなり、車の生産台数そのものが削減されるという効果です。一般的に、カーシェアリング車両が 1 台導入された場合、5 台の乗用車が不要になるといわれています。乗用車のライフサイクル上の CO₂ 排出量を考えると、この削減効果は大きいものです。

△カーシェアリングによるCO₂削減効果の算出

	自家用車保有の場合		(自家用車を保有せず) カーシェアリング車両利用の場合					
	1500ccの車を保有時		コンパクト・カー利用時		軽自動車利用時		ハイブリッド車利用時	
	CO ₂ 排出量 (kg/台/人/年)	削減率 (%)						
大都市圏			1,759.7	48.9%	2,020.3	56.2%	2,411.3	67.0%
地方中核都市	3,598.0	0.0	1,242.1	34.5%	1,582.3	44.0%	2,140.5	59.5%
地方都市			982.4	27.3%	1,363.2	37.9%	2,004.6	55.7%
平均	3,598.0	0.0	1,328.1	36.9%	1,655.3	46.0%	2,185.5	60.7%

○ユーピー・アール(株)の委託で、(株)日本能率協会総合研究所 が共同で作成した
「平成19年度カーシェアリング都市導入に関する効果推計業務 報告書」(平成19年10月) データ参考

下の表は「平成 19 年度カーシェアリング都市導入に関する効果推計業務 報告書」(平成 19 年 10 月) のデータを元に、ダウンサイジング効果と地域別に見る利用頻度の減少及び交通手段の転換による効果を乗じて CO₂ 削減効果を算出したものです。

地方での普及を積極的に支援中

当社は、カーシェアリングにおける国内草分け企業の 1 社です。直営のカーシェアリング・サービス事業のみならず、自社で開発したカーシェアリング用車載機および関連システムのレンタル事業も行っています。(レンタル事業では、直営事業で培った経験・ノウハウの提供も行っています) それら車両の合計台数は現在 500 台近くとなっています。ところで、カーシェアリングと言えば都会でのサービスと思われがちですが、都会に比べ世帯毎の車両保有台数が多い地方でも、CO₂ 削減のみならず渋滞緩和や公共交通の補完(公共交通過疎地対策)として近年注目されています。当社では、2011 年 6 月に山口県宇部市に直営ステーションを開設したほか、レンタル事業でも積極的に地方都市の事業者発掘と事業支援に注力しています。

Up! ならではのカーシェアリング(以下CS)事業
1 CS事業に関する企業の中でも草分け的な企業のうちの一社。
2 CS用車載機(車載端末)に関する国内第2位の独立系提供ベンダー!
3 車載機および付随サービスの提供に加え自らCS事業を展開する唯一の事業者。
4 CSサービスは国内No.1の稼働率! (※当社CSストア) <small>※当社CSストア</small>
5 電子道路で開拓。大学におけるCS事業で国内最大のCS実績を保有。

システムリニューアル

2012年6月に会員の利便性向上と入会関連資料・請求書等のペーパーレス化を目的に、カーシェアリングシステムの予約管理システムを刷新しました。

営業時間や予約時間単位など各種運用ルールや、免許証・クレジットカード期限の通知設定、料金プラン設定など事業者の要望に柔軟に対応できるようになりました。また、課金機能も新たに追加し、会員管理・実績管理から請求書作成までシームレスに行えます。クレジットカード決済代行会社を用意し、スピーディーな決済が可能。

Web 明細機能で請求書の送付が不要となり、コストも CO₂ 排出量も抑えられます。

会員向けの新機能としては、オンライン入会が可能になりました。会員獲得のチャンスを逃さないのはもちろん、紙面でのやりとりがなくなるのでこちらも CO₂ 排出量が抑えられます。利用終了時には利用時間・走行距離・料金をお知らせするメールを送信します。また過去の利用履歴・利用金額をさかのぼって確認できるので、利用の最適化が進み会員個々の CO₂ 排出量が抑えられます。

その他 取り組み

Up は「チャレンジ25キャンペーン」に参加しています。

温室効果ガス排出量を 2020 年までに 1990 年比で 25% 削減を目標とする国民的運動「チャレンジ 25 キャンペーン」。upr はチャレンジ項目のひとつである複数の人がクルマを共同利用するカーシェアリング事業を通じてキャンペーンに参加しています。また、upr は個人で温暖化防止活動に取り組む方々を応援する「チャレンジ 25 キャンペーン応援団」の一員でもあります。



チャレンジ
未来が変わる。
日本が変える。
25



何でも追跡システム 「なんつい」を使って モノの流れの「見える化」 をはかる



「なんつい」だから可能となった「見える化」

モノの位置を把握するための手段はG P S、I Cタグなど、いろいろありますが、物流の現場を考えた時、それらの導入には様々な課題が上がります。その課題を解決したシステム、それが「なんつい」です。

【仕組みがシンプル】

「なんつい」の導入にあたってお客様が用意するのはインターネットに繋がるパソコン、携帯電話・P H Sだけです。後は、upr が用意する「なんつい」端末を、対象のモノに取り付けるだけ。「なんつい」端末を手にしたその日から面倒な設定をしなくとも、すぐに使える簡単な仕組みとなっています。

【屋内でも位置測定が可能】

一般的に位置の取得といえばG P Sが有名ですが、「なんつい」端末にG P Sは搭載されていません。G P Sは衛星の電波を使って位置を特定するので、屋内やビルの陰など衛星の電波が入り

にくい場所では位置を特定できません。「なんつい」端末は、周囲にある複数のP H Sアンテナ（基地局）の電波強度から位置を特定するため、P H Sの電波が入る場所であれば、G P Sでは位置の特定が難しい屋内やビルの陰などでも位置を取得することができます。

【長寿命バッテリー】

「なんつい」端末は、アルカリ乾電池によって駆動します。使い方によっては半年から1年の間、電池交換する必要がなく利用することができます。これは「なんつい」端末が携帯電話やG P Sなどの消費電力の大きな機器を搭載せず、消費電力の少ないP H Sのみを使って位置の取得から送信までを行う仕組みだからです。物流機器など、頻繁なバッテリーの充電や交換ができないモノの位置を把握するのに最適な機器です。

【P H S端末が位置情報を自動送信】

一定間隔で位置を取得する設定にしておけば、「なんつい」端末からの位置情報が自動的にセンターサーバに送られてきます。利用者はパソコンなどで好きなときに移動履歴を確認することができます。

「なんつい」はいろいろな現場で活躍しています

トラックの追跡

設置工事はなく、トラック・シャーシに「なんつい」を載せるだけで運行状況把握（車載端末）

- ・納期管理で顧客サービス向上
- ・物流分析で効率化推進
- ・チルド、冷蔵輸送の温度管理で品質向上
- ・トラックの盗難対策



Up ジュラルミントランク追跡

情報漏えい経路の50%が紙媒体であり、情報漏えい原因の70%が『盗難』や『紛失・置き忘れ』です。

「なんつい」付 ジュラルミントランク」を使えば、情報セキュリティ関連書類、貴重品を安心して輸送できます。



内寸 : W510×D310×H12mm

外寸 : W530×D330×H185mm

建機の在庫管理・盗難時追跡

最近の建機には、各社共にGPSによる位置情報の取得と稼働メーター取り付けによる稼働状況管理が行われていますが、盗難の際には電源が切られてしまうことが多いそうです。取り付けが分かりにくい「なんつい」が利用されています。

目立たないように装着します。



パレットの追跡

「なんつい」を装着し、物流動線を調査することで、紛失元・紛失先・遠回り・滞留・転用状況などを把握でき、回収率UPや、コスト削減につながります。

プラスチックにも木製にも
装着可能です。



少量のGメンパレット製作で
回収率アップ！

新商品のご案内

温度センサー付「なんつい」端末

位置情報+温度情報を取得できる端末。
リアルタイムに位置と温度が確認でき、温度異常が発生した際には、メールを送信する機能が搭載されているため、即対応をする事ができます。



小型「なんつい」端末

世界最小クラスの位置情報端末。
非常に軽くサイズも小さいため、取り付けるものを選ばず、個人情報入りの封書輸送や折りたたみコンテナの管理等に向いています。





● カーゴ台車の紛失対策に「なんつい」が一役

～テスコジャパン株式会社様～

テスコジャパン株式会社様は、関東近郊で食品スーパー・マーケットを100店舗以上運営している会社です。

同社では、商品の配送を協力会社に外部委託されていますが、以前より店舗周辺に置いたカーゴ台車が持ち去られたり、勝手に利用されたうえに放置されたりと、多大な損害が発生していました。そのカーゴ台車の管理調査用として位置を追跡できるシステムを探され、2011年より「なんつい」をご利用いただいているいます。



カーゴ台車は無くなるのがあたりまえ？

物流現場において、カーゴ台車は「誰のものでもない皆のもの」といった無責任な認識があり、紛失・流失の実態は把握しきれていないという現状があります。物流の担当者に聞いてみても、「カーゴ台車の紛失・流失が いつ・どこで・どのように発生しているかわからない」といった声や、「顧客を含め、紛失させたと思われる取引先を追及することができないまま、うやむやにしている」といった声が返ってきます。そこで、「なんつい」を使ってカーゴ台車の位置の「見える化」を図ります。



テスコジャパン様のカーゴ台車

「なんつい」の使い方

カーゴ台車に「なんつい」端末を取り付け（写真1）、実際の輸送ルートに流し、この端末を専用のホームページにログインして、定期的に送られてくるカーゴ台車の位置情報を確認します。（写真2）確認した位置が、本来自社のカーゴ台車が行くはずもない場所だった（ルートをはずれた）場合、これまでだとそのまま紛失していました。「なんつい」端末についていると場所の特定ができる、その場所へ行ってカーゴ台車を回収することができます。但し、地図上で特定した場所に行っても位置精度の誤差により、目的のカーゴ台車がすぐに見つからない場合もあります。その場合は、PHSの電波の強さ（電界強度）を受信・表示するPHSアナライザと指向性を持ったアンテナを使い、

「なんつい」端末の発する電波の強い方向へ移動し、最終的に目的のカーゴ台車を探し出します。（写真3）

本事案では、カーゴ台車の流出先を特定し、カーゴ台車を回収することで、紛失処理していたカーゴ台車を再度利用できるようになり、長期間の滞留も把握できる為、カーゴ台車の効率利用にも寄与できました。

物流機器の紛失対策としては、パレットにも取り付け、効果を上げた事例も多くあります。



写真1 端末取り付け部分



写真2 「なんつい」の地図画面



写真3 指向性アンテナとアナライザ

「なんつい」を使い環境にも貢献

今まで回収できなかったカーゴ台車を回収し再度利用することで、補充コストの削減は元より、カーゴ台車を製造する際に使われる資源やエネルギーの削減にも繋がります。

材料の鉄を作る熱量、輸送時のCO₂の排出量は含まれておりませんが、カーゴ台車を製造するのに必要なエネルギーを算出したところ、一般的なカーゴ台車1台を製造するのに必要な熱量は8,300KJ(キロジュール)必要となります。省エネ法の原油換算係数の例で見た場合、0.0686gCO₂/KJ排出する計算となるため、紛失処理していたカーゴ台車1台を再度利用することで、8,300KJ×0.0686g=569g（※）のCO₂を削減したことになります。

※輸送時のCO₂排出量は、1トンの荷物を1km運ぶのにトラックでは153g、船では38g、鉄道では21gである。





地球環境保全への取り組み



植林事業への参画

Uprは、木製パレットをインドネシアやマレーシアなど東南アジアから輸入しています。その恵みに感謝し、その土地に再び木を植えることは、木材を利用する者としての責務だと私たちは考えています。

緑豊かな地球の未来のために今私たちが出来ること。そして木材を利用する企業として今当社が取り組むべきこと。

2010年から3ヵ年計画ではじまったマレーシアサラワク州での森林保全プロジェクトも、いよいよ今年が3年目。

60年代にハイウェイ整備等による伐採があり、その後保全林として植林がされてきましたが、一部不成績地があり、再植林します。

初めて植えた小さな苗も社員の背丈を超えるほど大きくなりました。

3年間で12ヘクタール(東京ドーム約3個分)、4,800本の植林を行いました。

荒廃した森林が元気になるように、これからも取り組んでまいります。

Up^rの地域貢献活動

1979年、Up^rは山口県宇部市に誕生いたしました。発祥の地である山口県宇部市で様々な活動をしています。

1. 宇部市とのネーミングライツ契約

2011年3月、山口県宇部市とネーミングライツ契約を締結し、宇部市野球場を「ユーピーアールスタジアム」に名称変更しました。ユーピーアールスタジアムはプロ野球のオープン戦や夏の全国高校野球大会の予選会場などの会場にも使用されています。



2. 全国中学校駅伝大会へのスポンサー活動

山口県のセミナーパークにて全国中学校駅伝大会が開催されています。Up^rでは、2007年より大会のゼッケンスポンサーをしています。

■サービスネットワーク



わたしたち **Up^r** は、地球を「循環型社会」へ運ぶ会社です。



「地球」。環境に優しく、国際的な視野から物流を見つめます。

「情熱」。チャレンジ精神を持って、常に向上を続けます。

「循環」。

資源、人、地球…。循環をテーマにパレットレンタルから時代に合った新システムなど新しい「物流形態」を提案します。

